

浜松学芸高等学校芸術科〔音楽・電子音楽〕

第35回 定期演奏会

2016年9月22日(木・祝) 13:30開場 14:00開演

アクトシティ浜松大ホール 入場料500円

I OPERA

ファンパーディング

「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

指揮：宮本賢二郎



▲第34回定演オペラ「フィガロの結婚」より

II CONCERT

1. ヴァイオリン独奏 …………… 津田真里亜(3年) ピアノ 藤田桃子(2年)
サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ 作品 28
2. 2台ピアノ …………… 伊藤春菜(3年) 永田春菜(3年)
サン＝サーンス：死の舞踏 作品 40
3. 合唱 …… 浜松学芸高等学校芸術科〔音楽・電子音楽〕合唱団
指揮 玉川昌幸
ピアノ 鈴木佳穂(3年) 長濱瑠美(3年)
バレストリーナ：アヴェ・マリア (Ave Maria)
メンデルスゾーン：ほめたたえよ、しもべたちよ (Laudate Pueri)
新実徳英：聞こえる (詩 / 岩間芳樹)
三善 晃 編曲：唱歌の四季 (全5曲)
宮川 泰 (西村 友 編曲)：若いってすばらしい (詩 / 安井かずみ)
ホルスト (松下 耕 編曲)：Jupiter (詩 / 吉元由美)



主催／浜松学芸高等学校芸術科 音楽・電子音楽課程

後援／浜松市・浜松市教育委員会 (公財)浜松市文化振興財団 静岡新聞社・静岡放送 中日新聞東海本社

(株)ヤマハミュージックリテイリング浜松店 (株)河合楽器製作所浜松ショップ ときわの会(浜松学芸高等学校同窓会)

【楽譜協力】トヨタミュージックライブラリー お問い合わせ 浜松学芸高等学校音楽館 TEL053-471-5338

入場券取扱い：アクトシティ浜松チケットセンターTEL451-1111/ヤマハミュージック浜松店 TEL454-2770/カワイ浜松ショップTEL455-0611

(音楽)(電子音楽)課程
実技相談会

第1回 12月3日(土)

第2回 1月7日(土)

中学生 管楽器ステップアップ講座 (対象：中2、中3) 10月1日(土)

浜松学芸中学校 《第2回 入試レクチャー》 10月23日(日)

浜松学芸中学校・高等学校 《オープンスクール》 11月3日(木) 12月10日(土)

<http://www.gakugei.ed.jp/>

I OPERA

第1部「定期オペラ」では毎年、音楽・電子音楽課程の生徒、更に美術課程の生徒が協力して本格的な舞台制作に挑戦しています。今年の演目は、フンパーディンクの名作オペラ「ヘンゼルとグレーテル」です。有名なグリムの童話によるこの作品は、家族で楽しめるメルヘンオペラとして、欧米ではクリスマスの時期によく上演されています。一見子ども向けの物語と思われがちなこの作品には、常に明るく楽しい雰囲気の中にも、19世紀以前までには見られたヨーロッパの農村部に生きる人々の貧困が描かれています。どんなに働いても楽にならない生活、生活に疲れた両親、無邪気に遊びながらもいつもおなかを空かせている子どもたち。このような貧困と対照的に描かれているのは、天使のように無邪気な子どもの姿と、「苦しい時に神様はきっと助けてくださる」という、祈りの心です。子どもたちの祈りの歌がこの作品のテーマとして現れ、子どもたちの魔女からの解放、そして両親との再会を経てクライマックスを迎えるときに再び高らかに歌いあげられます。フンパーディンクは楽しい話の中に、社会的なテーマをちりばめました。貧困の中で犠牲となる純粋な子どもたちの姿、生活苦の中で疲れ果てて愛を忘れる親の姿、魔女に象徴される子どもの社会的搾取。しかしクライマックスの親子の再会で描かれるのは、子どもこそが神からの贈りものなのだという強いメッセージです。子ども向けと思われるこの作品は、実は現代の大人にこそ心に響く作品と言えるでしょう。これらのテーマは精緻なオーケストレーションに複雑に織り込まれており、オーケストラで上演してこそ作品の価値が存分に現れると言っても過言ではありません。本日は歌手・オーケストラ一丸となつての演奏を是非お楽しみください。



▲第34回定期演オペラ『フィガロの結婚』より

【あらすじ】

貧しい農村の家。ヘンゼルとグレーテルは母に言いつけられた仕事をしている。空腹で退屈したヘンゼルは、ミルクの入ったつぼを見つけて飲もうとし、誤ってつぼを割ってしまう。そこへ母が疲れきって仕事から帰ってくる。割れたつぼを見て怒った母は我を忘れ、二人に森へ野苺を取ってくるようにと追い出してしまう。やがて父が上機嫌で帰宅。今日は祭りがあってほうきやかごがたくさん売れたからだ。しかし、父は子どもたちが森へ行つたと聞き、驚く。森には恐ろしい魔女が住み着いていて子どもたちが食べられているという噂を町で聞いていたのだ。二人は急いで森へと向かう。一方日暮れの森深くで、ヘンゼルとグレーテルは疲れきって眠ってしまう。それを優しく見守る眠りの精。朝、露の精が二人を優しく起こす。二人が道を探すとどこからかあまい匂いが。「あ、お菓子の家だ！」駆け寄り二人。だがそこには恐ろしい魔女が。さてこの話の結末はいかに。

【出演】

グレーテル	小林萌々 (2年)
ヘンゼル	彦坂礼美 (3年)
父	富田夏行 (3年)
母	川端美菜 (3年)
魔女	大岡笑子 (2年)
眠りの精	鈴木 菜 (3年)
露の精	山田夏未 (2年)
子ども	音楽課程生徒
オーケストラ	音楽・電子音楽課程生徒、卒業生、教員 (助演)
舞台美術・背景画	美術課程生徒

第2部のコンサートは、サン＝サーンス (1835年 - 1921年 フランス) の二つの作品が演奏されます。「序奏とロンド・カプリチオオーソ 作品28」は1863年に作曲されたヴァイオリンと管弦楽のための協奏的作品です。名ヴァイオリニストのパブロ・デ・サラサーテのために書かれ、スペイン出身のサラサーテにちなみスペイン風の要素が取り入れられ、初演当初から広く支持されました。現在でもサン＝サーンスの最も人気のある作品の一つで、ピアノ伴奏版でも演奏されています。

「死の舞踏 作品40」は、サン＝サーンスの作曲した4つの交響詩の中では最も有名な作品です。フランスの詩人アンリ・カザリスの奇怪で幻想的な詩に靈感を得て、1872年にまずは歌曲として作曲され、1874年に管弦楽曲としてまとめられました。作曲家自身の2台ピアノへの編曲版で演奏します。

そして演奏会のフィナーレは生徒全員の合唱で締めくくられます。今年は様々な時代の異なる地域の音楽に取り組もうと、《16世紀イタリアのその時代の最高の作曲家とされているパレストリーナの作品》《19世紀ドイツロマン派メンデルスゾーン作品》《現代日本の合唱曲》《日本の唱歌・童謡を素材にした混声合唱と2台ピアノのための編曲作品》《現代ポピュラー音楽の編曲作品》を選曲しています。



▲第34回定期演奏会より

II CONCERT